

島根原子力発電所の運転状況（平成21年5月）

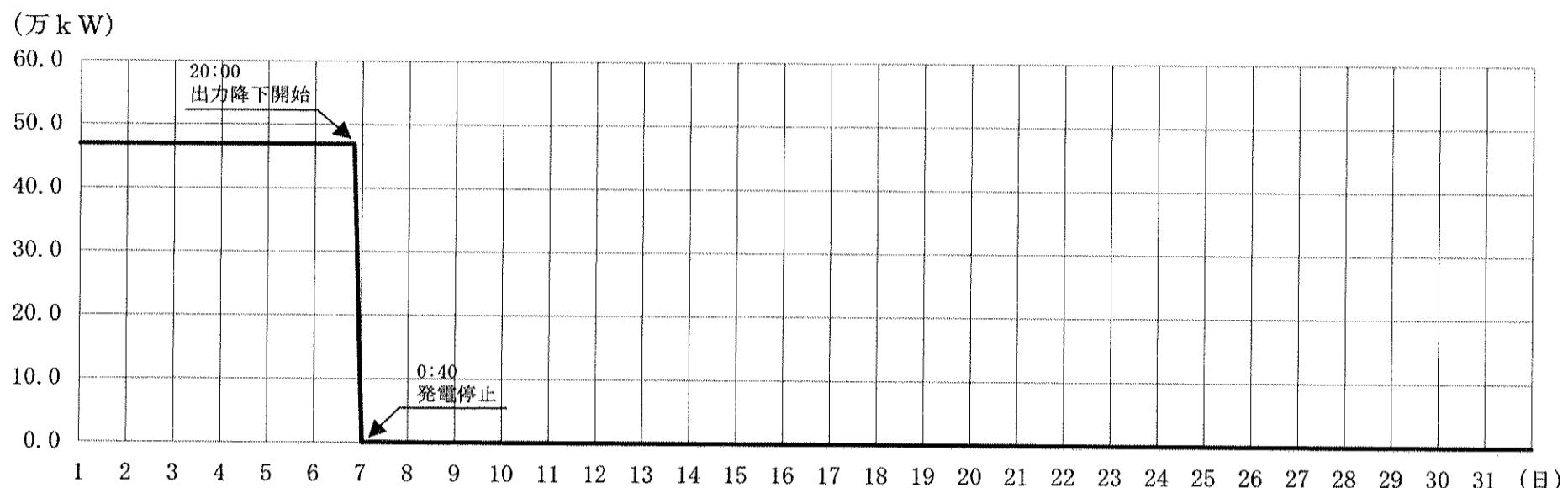
I. 1号機

1. 運転状況

発電時間 145 h 発電電力量 6,643.4万kWh 設備利用率 19.4%

2. 主要項目

①第28回定期検査のため発電停止（H21.5.7 0:40）



3. 特記事項

別紙参照

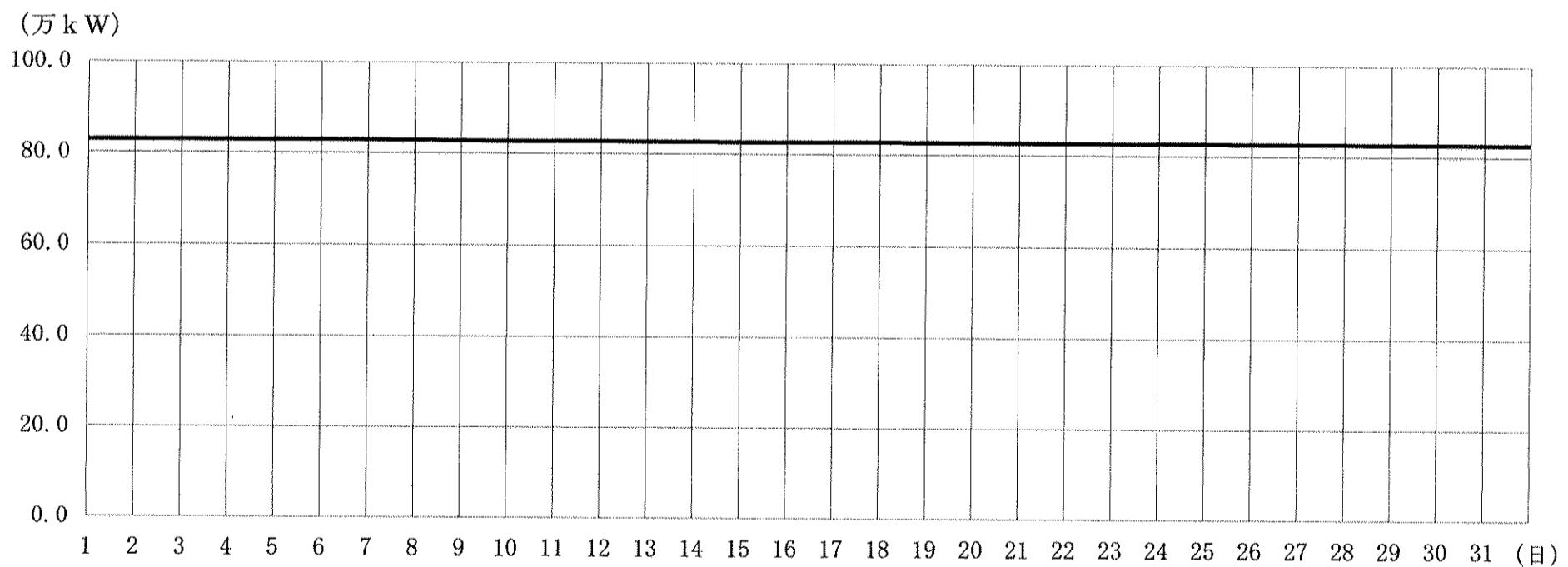
II. 2号機

1. 運転状況

発電時間 744 h 発電電力量 61,559.6万kWh 設備利用率 100.9%

2. 主要項目

なし



3. 特記事項

なし

III. その他

平成20年度の放射性廃棄物の放出実績に基づく一般公衆の実効線量の評価^{※1}（別紙参照）

※1 「島根原子力発電所の運転実績（平成20年度）」で、報告を5月分運転状況報告に併せて行うとしていたもの。

【特記事項】

1号機

(1) 5月13日(水)から原子炉再循環系配管等溶接継手部12箇所について、超音波探傷検査による点検を実施している。

6月4日(木)、B一原子炉再循環系配管の溶接継手部1箇所に、ひびを確認した。

今後、ひびの長さ、深さ等の詳細調査を行ったうえで必要な処置を施す。

なお、残りの箇所についても、超音波探傷検査を継続して実施する。

その他

(1) 平成20年度の放射性廃棄物の放出実績に基づく一般公衆の実効線量の評価については、下表のとおりであった。

項目	線量
実効線量の評価値(平成20年度実績)	<0.001ミリシーベルト/年 ^{※1}
法令で定める一般公衆の線量限度(年間) ^{※2}	1ミリシーベルト/年
参考:自然界から受ける線量(年間)	2.4ミリシーベルト/年

※1 この評価値は、「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針」に基づいて、次のとおり評価した値。

気体廃棄物については放射性希ガスからのガンマ線による外部被ばく及び放射性よう素の体内摂取による内部被ばくを、また、液体廃棄物中の放射性物質については、海産物を摂取することによる内部被ばくを実効線量で評価。

※2 自然放射線などから受ける線量は除外した値。

以上